

「西條」

令和7年度 第2号

保護者、地域の皆様には、様々な教育活動に対して、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。早いもので「大暑」へ季節が移り変わり、いよいよ夏本番となりました。

4月9日、104名の新入生を迎え、令和7年度は生徒数309名でスタートしました。1年生は、新しい仲間が増え、小学校とは異なる授業や部活動が始まり、心新たに頑張っている様子がうかがえます。2年生は、7月に「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を行いました。地域の34の事業所で受け入れていただき、そこでの活動を通して、働くことの大変さや楽しさを学びました。3年生は、7月の市音楽会で「正解」を歌いました。市芸術文化館に3年生の素晴らしい歌声が響き渡りました。また、部活動でも西條魂を存分に発揮していました。



心に残る言葉

漫画にも、名言といわれる素晴らしい言葉をたくさん見ることができます。『スラムダンク』での安西監督の「あきらめたらそこで試合終了ですよ…」や『GIANT KILLING』での達海猛の「自習。監督やコーチに言われたことをやるんじゃなくて、自分から自主的に動いてこと。」等もそうです。漫画や小説を読むとき、このように登場人物の台詞に注目して読んでいくと新しい発見がたくさんあって面白いのです。数年前のことですが、『甲子園への遺言』というすばらしい本と出会いました。伝説の打撃コーチといわれた高畠導宏さんの生涯を綴ったものです。高畠さんは、約30年間にわたりプロ野球の打撃コーチを務めました。落合博満選手やイチロー選手をはじめ、30人以上のタイトルホルダーを育て上げました。また、夢をもち続け、打撃コーチをしながら通信教育で5年間をかけて教員免許を取り、59歳で高校の教壇に立ち甲子園での全国制覇を目指しましたが、病で倒れ、60歳の若さで亡くなってしまいました。この本には、高畠さんが、プロ野球の選手や高校生たちに残した数々のすばらしい名言が掲載されています。「夢をもって突き進めば、何事もあきらめずにやっていけば、夢は必ず達成できる」「継続は力だよ、とにかくやりなさい」「最後はここ。優劣は、ハートの強さで決まる」等です。その中でも特に心に残った言葉は「理解とは、新しい情報を古い情報と関連づけて受け入れること。一度覚えたことを忘れないようにする方法論は、反復すること。このたった一つの方法は、反復。ようするに復習すること。しつこく復習する。」この言葉は、中学生のみなさんにとっても、とても大切な言葉だと思います。何事においても「しつこく復習する」この言葉を胸に、勉強にも部活動にも頑張る夏休みにしてほしいです。

(教頭 小間 健郎)